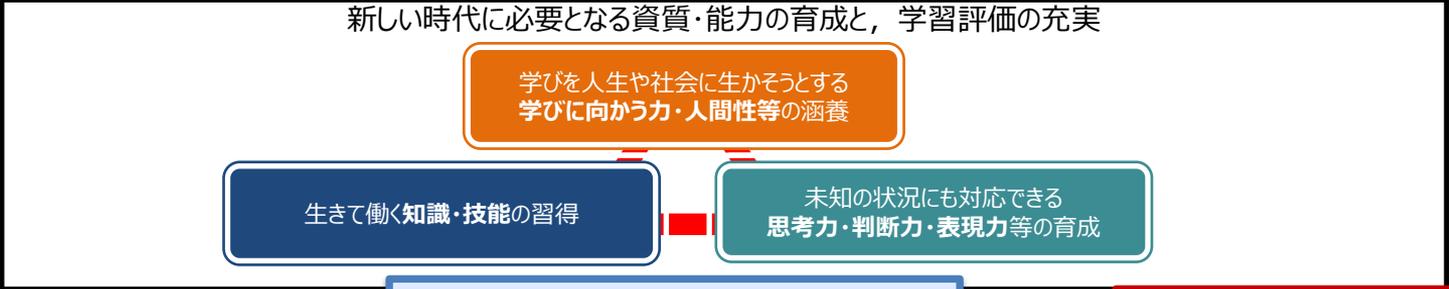


新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 国語科)

文部科学省
初等中等教育局
視学官 大滝 一登

学習指導要領改訂の考え方



何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

「教材を教える」ではなく、
「教材で資質・能力を
身に付けさせる」

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化，高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し，目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など，新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず，質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

```
graph TD; E[主体的な学び]; F[対話的な学び]; G[深い学び];
```

※高校教育については，些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており，そうした点を克服するため，重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

高等学校国語科の課題

- 高等学校の国語教育においては、教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていないこと、
- 古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないことなどが課題として指摘されている。

中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月、p.127）

教科の目標

国語〈現行〉

第1款 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。



※赤字は高等学校独自の文言

国語〈改訂後〉

第1款 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で**的確に**理解し**効果的に**表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) **生涯にわたる**社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【知識及び技能】

(2) **生涯にわたる**社会生活における**他者**との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を**伸ばす**。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 言葉のもつ価値への**認識を深めるとともに**、言語感覚を**磨き**、**我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち**、**生涯にわたり**国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。【**学びに向かう力、人間性等**】

「言葉による見方・考え方」について

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。

※高等学校学習指導要領解説【国語編】23ページより抜粋

国語の授業が、本当に「言葉にこだわる」授業になっていますか？

国語の授業が、「地理歴史」「公民」「理科」「家庭」「特別活動」「総合的な探究の時間」などの授業と見分けがつかなくなっていないですか？

《現行学習指導要領》

国語総合
(4単位)

国語表現
(3単位)

現代文A
(2単位)

現代文B
(4単位)

古典A
(2単位)

古典B
(4単位)

課題

話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の学習が十分に行われていない。

古典の学習について、日本人として社会や大切にしてきた言語文化を積極的に享受していくという観点から、弱く学習意欲が高まらない。

《新学習指導要領》

共通必修科目

現代の国語 (2単位)

○ **実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目**

【知識及び技能】

- ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色
- ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句
- ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方
- ・主張と論拠など情報と情報との関係
- ・推論の仕方
- ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方 など

【思考力、判断力、表現力等】

- 【話すこと・聞くこと】2 0 ~ 3 0 単位時間程度
- 【書くこと】3 0 ~ 4 0 単位時間程度
- 【読むこと】1 0 ~ 2 0 単位時間程度

言語文化 (2単位)

○ **上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目**

【知識及び技能】

- ・我が国の言語文化に特徴的な語句
- ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果
- ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係
- ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
- ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用 など

【思考力、判断力、表現力等】

- 【書くこと】5 ~ 1 0 単位時間程度
- 【読むこと】(古典) 4 0 ~ 4 5 単位時間程度
(近代以降の文章) 2 0 単位時間程度

「思考力・判断力・表現力等」の言葉の働きを捉える三つの側面

創造的・論理的
思考

感性・情緒

他者との
コミュニケーション

伝統的な言語文化
に関する理解

選択科目

論理国語 (4単位)

○ **実社会において必要となる論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目**

【知識及び技能】

- ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句
- ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方 (理解を深める)
- ・効果的な段落の構造や論の形式
- ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係
- ・推論の仕方 (理解を深める) など

【思考力、判断力、表現力等】

- 【書くこと】5 0 ~ 6 0 単位時間程度
- 【読むこと】8 0 ~ 9 0 単位時間程度

文学国語 (4単位)

○ **深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視した科目**

【知識及び技能】

- ・情景の豊かや心情の機微を表す語句
- ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴
- ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法
- ・人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用 など

【思考力、判断力、表現力等】

- 【書くこと】3 0 ~ 4 0 単位時間程度
- 【読むこと】1 0 0 ~ 1 1 0 単位時間程度

国語表現 (4単位)

○ **実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目**

【知識及び技能】

- ・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣い
- ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句
- ・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方 など

【思考力、判断力、表現力等】

- 【話すこと・聞くこと】4 0 ~ 5 0 単位時間程度
- 【書くこと】9 0 ~ 1 0 0 単位時間程度

古典探究 (4単位)

○ **生涯わたって古典に親しむことができるよう、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める科目**

【知識及び技能】

- ・古典を読むために必要な語句
- ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係
- ・古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響 など

【思考力、判断力、表現力等】

- 【読むこと】※1領域のため指導時数を示していない

各科目の内容の構成

	〔知識及び技能〕			〔思考力, 判断力, 表現力等〕		
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語	○	○	○	○	○	○
言語文化	○		○		○	○
論理国語	○	○	○		○	○
文学国語	○		○		○	○
国語表現	○		○	○	○	
古典探究	○		○			○

(○印は設定あり)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導の重視

語彙指導の改善・充実

	小学校第1学年 及び第2学年	小学校第3学年 及び第4学年	小学校第5学年 及び第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
	〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方 に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。					
語彙	オ 身近なことを表す語句 の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には 意味による語句のまとまり があることに気付き、語彙を豊かにすること。	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句 の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には 性質や役割による語句のまとまり があることを理解し、語彙を豊かにすること。	オ 思考に関わる語句 の量を増し、話や文章の中で使うとともに、 語句と語句との関係、語句の構成や変化 について理解し、語彙を豊かにすること。また、 語感や言葉の使い方に対する感覚 を意識して、語や語句を使うこと。	ウ 事象や行為、心情を表す語句 の量を増すとともに、 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係 に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	エ 抽象的な概念を表す語句 の量を増すとともに、 類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句 などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	イ 理解したり表現したりするために必要な語句 の量を増し、 慣用語や四字熟語 などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、 和語、漢語、外来語 などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
語彙	高等学校 現代の国語	高等学校 言語文化	高等学校 論理国語	高等学校 文学国語	高等学校 国語表現	高等学校 古典探究
語彙	エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句 の量を増すとともに、 語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方 などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句 の量を増し、 それらの文化的背景 について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	イ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句 の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句 の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	ウ 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句 の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	ア 古典に用いられている語句の意味や用法 を理解し、 古典を読むために必要な語句 の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

情報の扱い方に関する指導の改善・充実

	小学校第1学年 及び第2学年	小学校第3学年 及び第4学年	小学校第5学年 及び第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
	〔知識及び技能〕 (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方 に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。					
情報と情報との関係	ア 共通、相違、事柄の順序 など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心 など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果 など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果、意見と根拠 など情報と情報との関係について理解すること。	ア 意見と根拠、具体と抽象 など情報と情報との関係について理解すること。	ア 具体と抽象 など情報と情報との関係について理解を深めること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方 や 出典の示し方、辞書や事典の使い方 を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方 を理解し使うこと。	イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方 や 出典の示し方 について理解を深め、それらを使うこと。	イ 情報と情報との関係の様々な表し方 を理解し使うこと。	イ 情報の信頼性の確かめ方 を理解し使うこと。

	高等学校 現代の国語	高等学校 論理国語
情報と情報との関係	ア 主張と論拠 など情報と情報との関係について理解すること。 イ 個別の情報と一般化された情報との関係 について理解すること。	ア 主張とその前提や反証 など情報と情報との関係について理解を深めること。
情報の整理	ウ 推論の仕方 を理解し使うこと。 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方 について理解を深め使うこと。 オ 引用の仕方 や 出典の示し方、それらの必要性 について理解を深め使うこと。	イ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法 について理解を深め使うこと。 ウ 推論の仕方 について理解を深め使うこと。

我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

	高等学校 言語文化	高等学校 古典探究
	〔知識及び技能〕 (2) <u>我が国の言語文化</u> に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	〔知識及び技能〕 (2) <u>我が国の言語文化</u> に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
伝統的な言語文化	ア <u>我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係</u> について理解すること。 イ <u>古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景</u> などを理解すること。 ウ <u>古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現</u> などについて理解すること。	ア 古典などを読むことを通して、 <u>我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係</u> について理解を深めること。 イ <u>古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり</u> について理解を深めること。
言葉の由来や変化、多様性	エ <u>時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化</u> について理解を深め、 <u>古典の言葉と現代の言葉とのつながり</u> について理解すること。 オ <u>言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化</u> について理解を深めること。	ウ <u>時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響</u> について理解を深めること。
読書	カ <u>我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用</u> について理解を深めること。	エ <u>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用</u> について理解を深めること。

読書指導の改善・充実

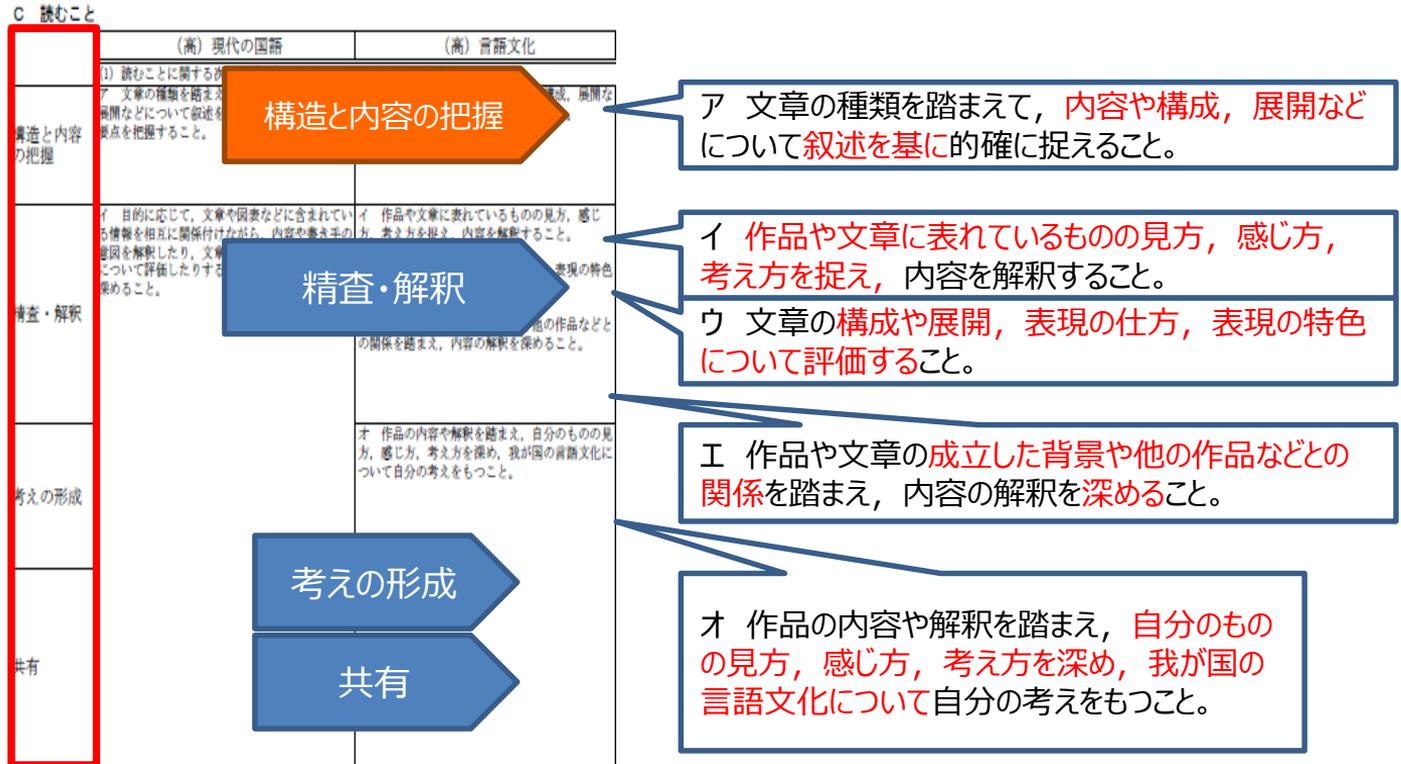
	小学校第1学年 及び第2学年	小学校第3学年 及び第4学年	小学校第5学年 及び第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
	〔知識及び技能〕 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。					
読書	エ <u>読書に親しみ、いろいろな本があることを</u> 知ること。	オ <u>幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つこと</u> に気付くこと。	オ <u>日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること</u> に役立つことに気付くこと。	オ <u>読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つこと</u> を理解すること。	エ <u>本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書</u> に生かすこと。	オ <u>自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用</u> について理解すること。

国語の授業での読書指導が行われていますか？

全科目の学習を通して、低調な高校生の読書活動の改善を図る

	高等学校 現代の国語	高等学校 言語文化	高等学校 論理国語	高等学校 文学国語	高等学校 国語表現	高等学校 古典探究
読書	ア <u>実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用</u> について理解を深めること。	カ <u>我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用</u> について理解を深めること。	ア <u>新たな考えの構築に資する読書の意義と効用</u> について理解を深めること。	イ <u>人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用</u> について理解を深めること。	ア <u>自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用</u> について理解を深めること。	エ <u>先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用</u> について理解を深めること。

学習過程の明確化（「言語文化」「B読むこと」）



科目「言語文化」「B読むこと」の言語活動例

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。

イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。

ウ 異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。

エ 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。

オ 古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。

目標を実現するための言語活動（「言語文化」の例）

「B読むこと」

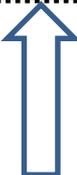
**指導事項
(言語能力)**

(例) 下人が楼を上がる場面の構成や表現について評価する

目標

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ウ 文章の構成や展開，表現の仕方，表現の特色について評価すること。

言語活動



言語能力(1)が身に付けられるように、
言語活動(2)を通して確実に育成する

手段

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。

(例) 下人が楼を上がる場面の描写がどのような効果
を上げているか具体的な表現を根拠にしながら話し合う

≠「話すこと・聞くこと」

注意!

※あくまでも読みを深めるための話し合い

学習過程の明確化（「現代の国語」「話すこと・聞くこと」）

【思考力、判断力、表現力等】
A. 話すこと・聞くこと

話すこと・聞くこと	（高）現 ア 目的や場に応じて、 適切な話題を決め、様々な観点から 情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
話すこと・聞くこと	イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の 立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を 予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。
話すこと・聞くこと	ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況 に応じて資料や機器を効果的に用いたりする など、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。
話すこと・聞くこと	エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、 論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った 情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。
話すこと・聞くこと	オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、 話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの 仕方や結論の出し方を工夫すること。



ア 目的や場に応じて、**実社会の中から**適切な話題を決め、**様々な観点から**情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。



イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の**立場や考え**を明確にするとともに、**相手の反応を予想して論理の展開**を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。



ウ **話し言葉の特徴**を踏まえて話したり、**場の状況**に応じて**資料や機器**を効果的に用いたりするなど、**相手の理解が得られるよう**に表現を工夫すること。



エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の**内容や構成**、**論理の展開**、**表現の仕方**を評価するとともに、聞き取った**情報を整理して自分の考えを広げたり深めたり**すること。



オ **論点を共有**し、考えを広げたり深めたりしながら、**話合いの目的、種類、状況**に応じて、**表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方**を工夫すること。

各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における授業時数

	〔思考力、判断力、表現力等〕		
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語	20～30単位時間程度	30～40単位時間程度	10～20単位時間程度
言語文化		5～10単位時間程度	【古典】 40～45単位時間程度
			【近代以降の文章】 20単位時間程度
論理国語		50～60単位時間程度	80～90単位時間程度
文学国語		30～40単位時間程度	100～110単位時間程度
国語表現	40～50単位時間程度	90～100単位時間程度	
古典探究			※

(※「古典探究」については、1領域のため、指導時数を示していない。)

各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における授業時数

現行

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと+〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の一部
国語総合	15～25単位時間程度	30～40単位時間程度	※古典と近代以降の文章の割合はおおむね同等，古文と漢文は一方に偏らない
計	15～25単位時間程度	30～40単位時間程度	

新

〔思考力，判断力，表現力等〕			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語	20～30単位時間程度	30～40単位時間程度	10～20単位時間程度
言語文化		5～10単位時間程度	【古典】 40～45単位時間程度 ※古文と漢文は一方に偏らない 【近代以降の文章】 20単位時間程度
計	20～30単位時間程度	35～50単位時間程度	70～85単位時間程度

各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における教材の取扱い（抜粋）

現代の国語	【読むこと】 ○現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章
言語文化	【読むこと】 ○古典及び近代以降の文章とし、日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを含める ○我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう、我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げる ○必要に応じて、伝承や伝統芸能などに関する音声や画像の資料を用いることができる
論理国語	【読むこと】 ○近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章 ○必要に応じて、翻訳の文章や古典における論理的な文章などを用いることができる
文学国語	【読むこと】 ○近代以降の文学的な文章 ○必要に応じて、翻訳の文章、古典における文学的な文章、近代以降の文語文、演劇や映画の作品及び文学などについての評論文などを用いることができる
国語表現	【話すこと・聞くこと】 ○必要に応じて、音声や画像の資料などを用いることができる
古典探究	【読むこと】 ○古典としての古文及び漢文とし、日本漢文を含める ○論理的に考える力を伸ばすよう、古典における論理的な文章を取り上げる ○必要に応じて、近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などを用いることができる

国語科の授業改善に向けた留意点（例）

自校で育成する資質・能力を最優先した カリキュラム・ポリシーの確立を

- 資質・能力ベースの学習指導（「教材ありき」からの脱却）
- カリキュラム・マネジメント（組織的， P D C A）
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 〔知識及び技能〕と〔思考力・判断力・表現力等〕との関連
- 1 単位時間にとどまらない単元全体を見据えた指導計画
- 「言葉による見方・考え方」を働かせる国語科の学習
- 言語活動の充実（国語科は「要」としての教科）
- 指導方法，教材研究，授業技術の深化・共有
- 目標に準拠した評価の推進
- 義務教育，大学教育との接続
- 外国語科など他教科との関連，連携

など

組織的・計画的な授業改善を進めるための視点（例）

- そもそも教育活動としての授業が何のためにあるか、**何を指すか**について**共通理解**が醸成されているか。
- 国語科として、**生徒がどのような姿になることを指すのか**。その中で、例えばペーパーテストが解ける姿はどのように位置付けられるのか、検討し、**自己目的化を排除**。
- 組織として指導することの意義**について検討する。個々の教師の力量・個性を生かすことと、どの教師でも共通した指導が受けられることとのバランス。
- 学習の主人公である**生徒の立場に立った学習指導**をどのように充実させるか。言語活動や教材の工夫等について考える。
- 年間指導計画**、**学習指導案の作成**を形骸化させないためにはどうすればよいか。
- 教師相互が尊重し合いながら学び合える場や環境**をどのように継続して設定できるか。

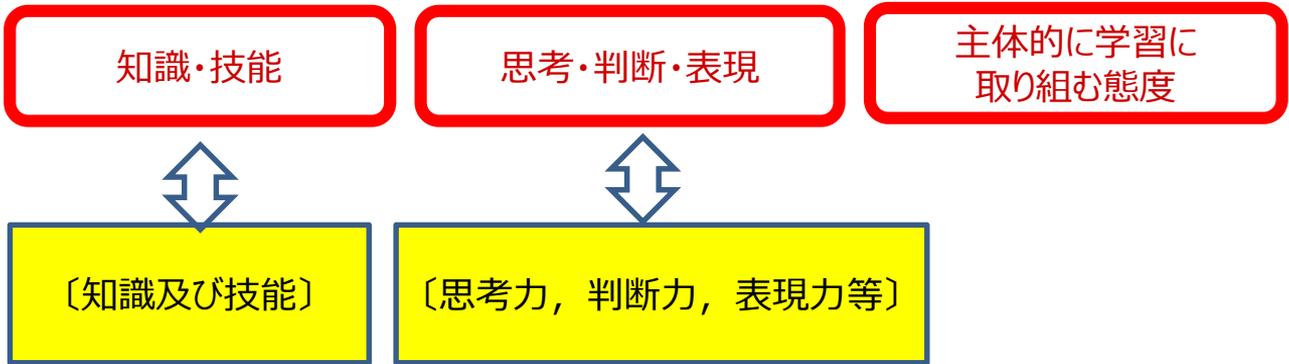
など

評価の観点と内容のまとめ

現行



新



(参考) 「知識・技能」の評価

- 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である

- ・「知識・理解」（各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価）
- ・「技能」（各教科等において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかを評価）
においても重視。

<評価の工夫（例）>

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
 - ・児童生徒に文章により説明をさせる。
 - ・（各教科等の内容の特質に応じて）観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

<参考>「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）
P. 7～8 （以下「報告」）

(参考) 「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である「思考・判断・表現」の観点においても重視。

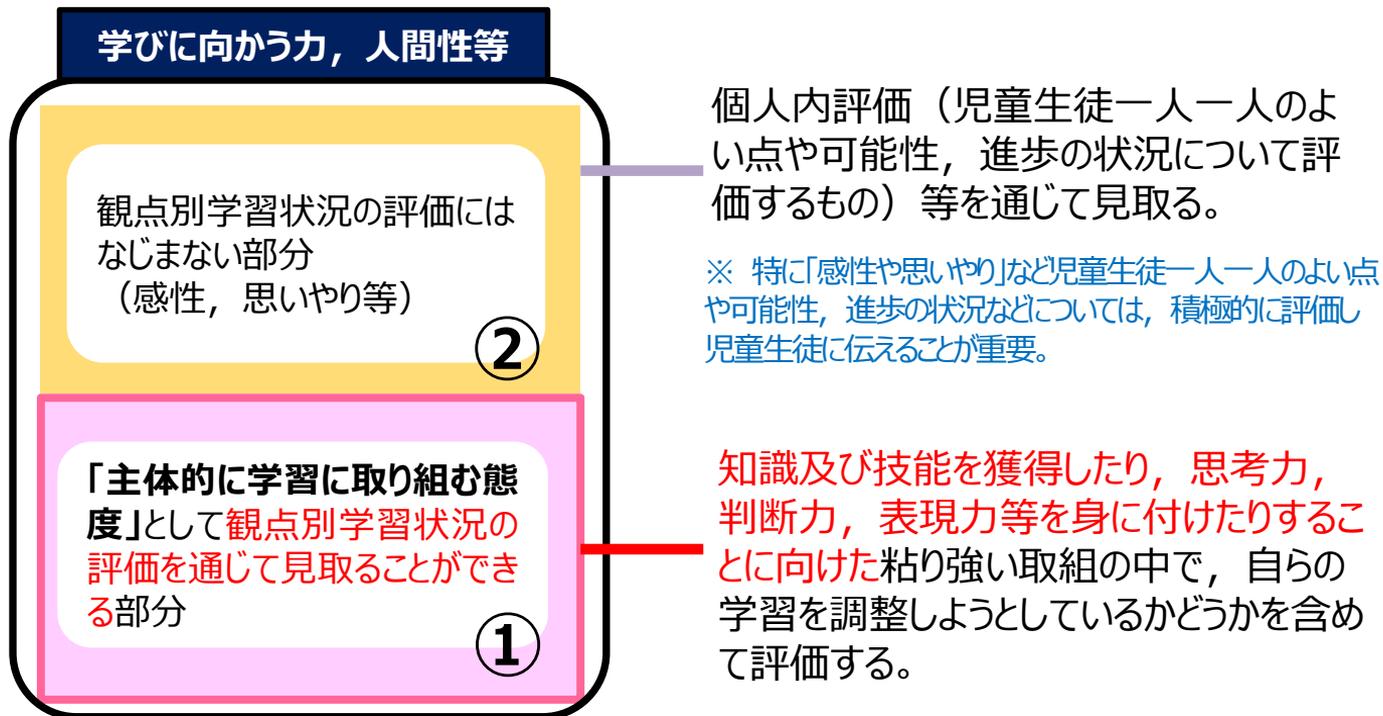
<評価の工夫（例）>

- 論述やレポートの作成，発表，グループでの話し合い，作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

<参考> 報告 P. 8～9

(参考) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価①

「学びに向かう力，人間性等」には，①主体的に学習に取り組む態度として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と，②観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分がある。



(参考)「主体的に学習に取り組む態度」の評価②

<評価の工夫(例)>

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。
(例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。)

<参考> 報告P. 13

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

➤ 国立教育政策研究所において、教科等ごとに作成

※ 小学校・中学校：令和2年3月

高等学校：令和3年8月

国立教育政策研究所作成

➤ 構成

第1編 総説

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

第3編 単元（題材）ごとの学習評価について（事例）



<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>



Step 1 単元で取り上げる指導事項の確認

年間指導計画等を基に、
単元で取り上げる指導事項を確認する。

3領域1事項別に一覧可能

評価規準

評価方法

教材

学校として年間で育成を目指す
資質・能力を明示

授業時数を明記
→表末に合計を記入し指導漏れを防止

(山梨県教育委員会の例)

「年間指導計画表」の例 (「現代の国語」〔思考力、判断力、表現力等〕「書くこと」の一部を抜粋)

指導事項・言語活動例	No.				Unit 単元名
	1	2	5	6	
授業時数 (合計 35 単位時間)	3	5	4	5	
ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。					
イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。					◎
ウ 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。					
エ 家社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を踏まえたもとに、語句や言葉の構造の特色、用法及び表記の仕方などを理解し、語や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。					◎
オ 文、話、文章の効果的な編立て方や接続の仕方について理解すること。					◎
カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。					◎
ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。					◎
イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。					◎
ウ 推論の仕方を理解し使うこと。					◎
エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。					◎
オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。					◎
ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効果について理解を深めること。					◎
ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。					◎
イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。					◎
ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えたとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。					◎
エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を捉えたり、読み手からの反応などを踏まえて、自分の文章の特色や課題を捉え直したりすること。					◎
ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動。					●
イ 読み手が必要とする情報に応じて手紙や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動。					●
ウ 調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる活動。					●
(上記以外の言語活動)					●

(参考資料p.60)

Step 2 単元の目標と言語活動の設定

Step 1 で確認した**指導事項**を基に、単元の目標を設定する。

(「事例3」の場合、参考資料p.61)

1 単元の目標

- (1) 主張と論拠など情報と情報との関係について理解することが**できる**。 [知識及び技能] (2)ア
(2) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することが**できる**。 [思考力、判断力、表現力等] C (1)ア

(1) , (2)については、基本的に**指導事項の文末を「～できる。」**として示す。

- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

(3)については、いずれの単元についても**当該科目の目標**である「**言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする。**」までを示す。

Step 3 単元の評価規準の設定①

知識・技能

思考・判断・表現

【2観点に共通】

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している」として、「知識・技能」、及び「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

思考・判断・表現

領域を意識して授業を行う

【「思考・判断・表現」の評価規準】

評価規準の冒頭に、当該単元で指導する一領域を「（領域名を入れる）において、」と明記する。

Step 3 単元の評価規準の設定②

指導事項について、その文末を「～している」として、「知識・技能」、及び「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 <u>（1）ア</u>	①「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <u>（B（1）エ）</u> ②「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <u>（B（1）オ）</u>	評価規準の冒頭に、当該単元で指導する一領域を「（領域名を入れる）において、」と明記する。

（「事例6」の場合、参考資料p.85）

Step 3 単元の評価規準の設定③

主体的に学習に
取り組む態度

該当する指導事項はない。

評価規準の文言を新たに作成する。

【作成の考え方】

①知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と，②①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。文末は「～しようとしている」とする。

①，②を踏まえ，当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて文言を作成する。

Step 3 単元の評価規準の設定④

具体的には、前述①、②の側面の双方を適切に評価するため、下記③、④に示したように、特に、**粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想し、評価規準を設定することが大切である。**このことを踏まえれば、①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外の文言も想定される。また、①～④は順序性を示すものではないこと、④については、**言語活動自体を評価するものではないことに留意**する必要がある。

- ① **粘り強さ**〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ② **自らの学習の調整**〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして 等〉
- ③ 他の2観点において重点とする内容（特に、**粘り強さを発揮してほしい内容**）
- ④ 当該単元の具体的な言語活動（**自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動**）

Step 3 単元の評価規準の設定⑤

④当該単元の具体的な言語活動
(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 言語文化の継承	① 「読むこと」において、作品の背景や作者の意図との関係や解釈を深めていく。	作品とその原作との読み比べ(④)を通して、積極的に(①)、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ(③)中で、自らの学習を調整(②)しようとしている。
	② 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	

①粘り強さ
〈積極的に、進んで、粘り強く等〉

②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉

③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)

Step 4 単元の指導と評価の計画の決定

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

4 指導と評価の計画（全3単位時間想定）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ これまでの学習や読書経験を振り返り、説得力の高い論理的な文章の特徴について全体で話し合う。 ○ 共通のテーマを取り上げた短い論理的な文章（新書の一部や新聞の社説など）Ⅰ及びⅡについて、構成や論理の展開についてノートに整理する。 	[知識・技能] ①	「記述の点検」
	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの文章の主張と論拠、それらの関係について考え、主張と論拠との関係について理解する。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ Ⅰ、Ⅱと同じテーマを取り上げたやや長い論理的な文章Ⅲを読み、主張、論拠、文章の構成、論理の展開についてワークシートに記入した後、200字程度で要約する。 	[思考・判断・表現] ①	「行動の観察」 「記述の点検」
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで互いの要約を読み、気付いたことを述べ合う。 ○ グループで話し合ったことを全体で発表し共有する。 ○ 単元全体を通じた学習の振り返りを行い、文章の要旨を把握する上での留意点等を理解し、自らの考えを深める。 	[主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の分析」

学習評価を意識した上で
学習活動を構想

評価規準に基づいた、
評価場面の精選

資質・能力を評価する
ために適した
評価方法の選択

Step 5 評価の実際と手立ての想定①

それぞれの評価規準について、**実際の学習活動**を踏まえて、**「Bと判断する状況」の例**、「**Cと判断する状況への手立て**」の例を想定する。

「知識・技能」の評価規準
主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。

【生徒Vのノートの記述】

	文章Ⅰ	文章Ⅱ
主張と論拠	宇宙探査機〇〇の任務の成功を心から賞賛したい。なぜなら、△△△△や△△△△など、幾度の失敗を粘り強く乗り越えて勝ち得た任務の遂行であることが詳細に報告されたからだ。	宇宙探査機〇〇の偉業を見守った子供たちから、将来、科学者や技術者を目指す人材がきっと出てくるに違いない。なぜなら、この成功を支えたのは若い世代の取組であり、夢や希望を与えられた子供たちがいたからだ。
そのように考えた理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「主張」については、書き手が最も自分の思いを強調するべき、本文のタイトルに「宇宙探査機〇〇の成功に喝采」とあったから。 ・「論拠」については、失敗を乗り越えたことだけでなく、△△△△や△△△△など、その具体的な事実が複数示されていたから、理由付けと根拠に当たると思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主張」については、書き手の思いを述べた「きっと」、「～に違いない」という強い言葉は最終文にしか使われていないし、本文の中盤で若手人材の育成に関する他分野の話題もあったから。 ・「論拠」については、若者が研究者や技術者を指すのは夢や希望をもつからであり、成功を支えた若い世代の取組の具体的な解説と、この成功を知った小学生たちの憧れの声も掲載されていたから。
共通点	どちらも、「主張」には書き手の強い思いや考えが本文で最も強調されていることが分かる言葉が含まれていて、「論拠」には、それを補強する具体的な事実が含まれていると思った。	

単に「主張」と「論拠」とを示すだけでなく、言葉に着目しながら、「主張」とは何か、「論拠」とは何か、両者の関係はどのように強められているかなど、「主張と論拠との関係」についての**概念的な理解**を得ているため、Bと判断。

Step 5 評価の実際と手立ての想定②

「思考・判断・表現」の評価規準

「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。

【生徒Gのレポートの記述】

古典の世界では、今の私たちの生活では存在しない「身分の違い」が人間関係の土台となっています。だからこそ、作品の中には敬語が数多く用いられ、その用いられ方によって動作主が誰であるか、身分がどれほど高いのかなどを把握することができます。

人間関係には、恋愛関係や友人関係、主従関係や師弟関係など様々なものがあり、私たちが生きる現代社会においても、古典の世界と同じように多様な人間関係が存在しています。私たちは、先生に話しかける際、友達に話しかけるのとは違って敬語を使います。部活動の先輩と話をするときも敬語を使うのが当然で、タメ口は叱られます。古典作品からも分かるように、我々日本人は昔から相手の立場に合わせて相手を敬う言葉遣いを重視して人間関係を築いてきました。その点では、私たちが使っている敬語そのものが時代を越えて受け継がれているものと言えます。

我が国では、古典でも、現代語でも当たり前前に敬語が使われていますが、外国の言語ではどうなのでしょう。機会があれば、外国語での敬語についても調べてみたいと思います。外国語と日本語を比較することで、日本語の特徴について改めて考えてみたいと思います。このような視点をもてるのも古典を読む意義の一つだと私は考えます。

他の評価材料（ワークシート）から、評価規準の一部についてB評価の候補としていたことに加え、レポートでは今回学習した古典作品だけでなく、古典自体を読むことの意義についての自分の考えを、他の言語と比較するなどしながら述べているため、評価規準全体について、Bと判断。

Step 5 評価の実際と手立ての想定③

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準
 作品とその原作との読み比べを通して、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ中で、自らの学習を調整しようとしている。

【振り返りシートの一部】

		今日の学習の成果	今日の学習の課題	先生のコメント
第1次	○月○日 第○時限	「今昔物語集」と「羅生門」を読んだ。	「羅生門」を読んで、ただ不気味な作品だと思った。	何を学んだのかな？身に付いた具体や学び方に対する課題を記録しよう。
第2次	○月○日 第○時限	「羅生門」が「今昔物語集」を軸にして、情景、心理描写を付け加えたり、設定を書き換えたりしていることを学んだ。	下人の心情がコロコロ変わっていたため何を伝えなかったのか分からなかった。ワークシートの取組で、一つのところ分からないとずっと考えてしまい時間内に終わらなかった。時間配分の管理も意識したい。	学んだことや課題が具体的に記録されていますね。次回、解決を試みよう！
	○月○日 第○時限	みんなの発表の中で、設定について発表した人から、「羅生門」が、それぞれ対になっており、空間と時間の狭間が意識的に描かれていることを学んだ。	なぜ「羅生門」を描くに当たって、「今昔物語集」を基にしたのかが分からない。他にも作品がある中で、どうして芥川は「今昔」から選んだのだろうか。	「空間と時間の狭間」という発表を聞いて1さんはどう感じましたか？
第3次	○月○日 第○時限	前の時間で疑問に思っていた、芥川が「今昔物語集」を選んだ理由について考え、境界や狭間を表すのに効果的な場面設定が理由だと考えた。	「鼻」も平安時代の話を基にしている、芥川が平安時代の説話にこだわった理由が結局分からなかった。他の作品ももう一度読み直して、「羅生門」とどのように違うのか考えてみたい。	ていこう。
単元終了後		最初分からなかったことも、作品比較をすることで、特徴が浮かび上がることがあった。「羅生門」では下人の心情がコロコロ変わって、それが付け加えられていると気付いたが、それが何のために作者がわざと付け加えられたのかと考えた時に、作者がその描写にある意図を隠しているのではないかと考えた。みんなのプレゼン聞いて、特に設定について作者がわざと用意した仕掛けについて、自分では全く気付けなかった描写の効果、生き物がそこにいるかいないかで、時間の推移が分かる、とか、本文を注意深く読むことが、作品の深い理解につながると考えた。		原作にない要素をあえて作者が付け加えたことよって、作者の解釈が深まった様子が伺えます。他の作品でもこの視点を大切にしよう！

自らの学習の成果と課題の振り返りになっていないため、教師がBの状況に高めるために助言。

学習内容への疑問の具体化や自らの学習への試行錯誤がみられる。

単元全体の振り返りにおいて、資質・能力の向上への姿勢が形成。

(「事例6」の場合、参考資料p.92)

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 国語科)

文部科学省
初等中等教育局
視学官 大滝 一登